

来

場

歡

迎

12月7日
平成25年

土曜 午後2時~6時

入場 無料

会場 三陸復興国立公園
岩手県 / 大槌町

三陸花ホテル
はまぎく 旧岩盤観光ホテル

主催 奈奈子祭実行委員会
 協力 三陸花ホテルはまぎく
 連手門学院大学地域文化創造機構
 大阪市立大学都市研究プラザ
 (公社) 全日本郷土芸能協会
 ふるさと若手の芸能とくらひ研究会
 (一社) 震災リゲイン
 文化芸術による復興推進コンソーシアム
 issue+design
 (公財) 鼓童文化財団
 (株) JTBコーポレートセールス
 岩手県交通(株)
 遠野まごころネット
 (一社) 三陸ひとつなぎ自然学校
 後援 大槌町教育委員会
 大槌町郷土芸能保存団体連合会

文の陣

奈奈子祭

愛宕青年会 八木節

白澤鹿子踊

鶉鳥神楽

岳神楽

城山虎舞

鼓童

雁舞道七福神

当日は浪板地区仮設住宅巡回バスを運行します。

奈奈子祭

冬の陣

東日本大震災により壊滅状態になった釜石市の鶴住居地区にて、被災した芸能団体の発表の場を作ることによって、市内各所の仮設住宅に離れはなれになった地区住民のコミュニティを再建したい。こうした思いから企画され、発声者の名前をとって2013年2月24日に箱崎町白浜にて開催された「奈奈子祭」郷土芸能で復興サポート！は、各方面に反響を呼び、2013年7月27日に釜石市根浜の宝来館にて「奈奈子祭」夏の陣」を開催することができました。今回の「奈奈子祭」冬の陣」はその趣旨を一層発展させながら、初めて釜石市外に出ます。震災で大きな被害を受けて最近ようやく復活した大槌町浪板の三陸花ホテルはまぎくを舞台として、地域の方々はもとより観光客にも参加してもらおうという新しい環境の中で、郷土芸能を通じた三陸沿岸部の持続的な復興を祈念いたします。

奈奈子祭実行委員会

平成25年

12月7日

土曜 午後2時~6時

無料

会場

三陸花ホテルはまぎく

岩手県大槌町浪板海岸

電話 0193・44・2111

スヶジユール

午後2時 奈奈子の挨拶

午後2時 白澤鹿子踊

午後2時20分 鶏鳥神楽

午後3時10分 愛宕青年会八木節

午後3時30分 岳神楽

午後4時20分 城山虎舞

午後4時40分 鼓童

午後5時30分 八木節十鼓童

午後5時40分 実行委員長の挨拶

午後5時40分 雁舞道七福神

出演団体

鶏鳥神楽

鶏鳥神社の権現様を奉侍し、毎冬、陸中海岸を巡行するスーパー廻り神楽。烈しさと繊細さが織りなす、信仰と舞の融合の極致。メンバーは普代村、田野畑村出身が中心だが、新たに釜石市出身の若者が入り、活気づく。岩手県指定無形民俗文化財、国選択無形民俗文化財。

岳神楽

日本の神楽の代表的存在。その輝かしい肩書きすら余計なものと思えるほど、肉体の限界を突き抜けたところから立ち上がる圧倒的な表現は、地域の山岳信仰を見事に形象化している。国指定重要無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産。

鼓童

最高峰の和太鼓集団として音楽の可能性を極限まで追求する。グローバルに活躍しつつも、新しい地球文化を探る国際芸術祭「アース・セレブレーション」の開催など、拠点を佐渡から移さないというブレない姿勢が、ローカルを鼓舞する奈奈子祭の支援へとつながる。

白澤鹿子踊

白澤鹿子踊保存会館伝承館を拠点として、地域の民俗芸能復興の中心的役割を果たす。鹿子頭に用いるカナガラの原料となるドロノキを栽培するなど、スケール大きな芸能環境の形成を見据える団体。

愛宕青年会八木節

約100年前に群馬出身の船乗りによって伝えられたという。全国的に有名な八木節に乗せて、左右に体を揺らす軽快なステップ、番傘を曲芸的に操るテクニックは必見。若い世代に圧倒的な人気を誇る。

城山虎舞

大槌町の若者有志が平成8年に結成した新しい団体。東日本大震災によって一切を失ったが、復興を牽引するフロントランナーとして人々を力強く鼓舞してきた。今年9月1日、完全復活宣言。

雁舞道七福神

小学生が七福神に扮して順々に踊る様子が愛らしい。昭和28年に始まった。東日本大震災によって甚大な被害を受けたが、「七福神を踊りつづけ、ずっと家族のような絆を続けていきたいのです。」という。